

第七回

えんの舞 in 柿傳のご案内

平成三十一年六月六日(木)

神崎えんさんの舞の会について、ご案内致します。

この会を私共で初めて開催致しましたが、衣擦れの音が聞こえる程の間近で、舞をご覧頂き、お陰さまでお客様からご好評を頂戴しました。

第二回となる今回は、地唄舞とあわせて、茶室「残月」で舞をご覧になって頂き六階「古今サロン」にてお茶一服もお楽しみ頂く趣向でございます。

お食事を希望される方は、追加のご料金となってしまいますが、ゆっくりとお召し上がり頂ける様、舞の会・特別松花堂弁当を八階の椅子席でご用意させていただきます。謹んでご案内申し上げますので、ご知友、お誘い合わせの上、えんさんの舞をお楽しみ頂ければ嬉しいです。

柿傳ギャラリー 店主 安田尚史

神崎えん (地唄舞 神崎流 四世家元)

父である三世宗家 秀珠の膝下にて、二世宗家 神崎ひでにも師事、昭和五十八年よりは武原はん師にも師事を受ける等、地唄舞一筋に打ち込む。

平成十一年には「第三〇回日本舞踊批評家協会賞新人賞」を受賞。同年、四世家元を襲名。

神崎流地唄舞研究会を継承し、主催する。

昭和五十六年より毎年、「えんの会」の公演を行っている他、平成二十三年には、パリの日本文化会館にて公演を行うなど、日本の伝統芸能である地唄舞の伝承、発展に尽力している。

地唄舞とは

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は「能」の動きにも見られるように、回転、旋回する動きを指します。「踊」は解放的に跳躍する動きを呼びます。

この「舞」を座敷で、三味線音楽である地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」の初期のかたちでした。神崎流は、初代が大阪から東京に移り創流、その後四代目の神崎えんまで引き継がれ、ただ一つ東京で育まれて来た地唄舞の流儀です。

□日時

平成三十一年六月六日(木) 十四時の会、十七時の会

□会場

新宿 京懐石 柿傳 九階「残月」の間

□会費 一万二千円(税込)

お問い合わせ、お申し込みは

新宿柿傳 電話03-3352-5121 までお問い合わせくださいませ。